

「女性先端科学者セミナーⅡ」シンポジウム 報告書

日 時：2008年1月16日（水）13：10～17：00

場 所：奈良女子大学理学部・G202講義室（G棟2階）

対 象：数学・物理科学・情報科学専攻の博士前期課程の学生

参加人数：56名

プログラム：13：10～13：15 挨拶

大学院教育プログラム推進委員会委員長 岩淵修一

13：15～14：10 「臨床研究における欠損データへの対応」

嘉田晃子氏（国立循環器病センター研究所病因部・研究員）

14：25～15：20 「量子情報処理の壁とその乗り越え方」

松尾美緒氏（東京大学大学院理学系研究科・准教授）

15：35～16：30 「The role of the round spheres」

Hui Ma 氏（中国 清華大学・副教授）

16：30～17：00 学生から講師へのインタビュー

概要・感想：

嘉田晃子氏は医療開発や治療診断法確立のための臨床研究における欠損データへの対応について講演された。実際のデータをもとにした様々な欠陥メカニズムの説明とそれぞれの欠陥メカニズムに応じたバイアスを防ぐ方法の説明はとても興味深いものだった。

松尾美緒氏は量子情報処理をする際に「壁」となるいくつかの点に触れながら、量子情報の最近の発展や、松尾氏の最新の研究成果をお話しされた。量子情報処理がどのようなものなのかということ、量子力学の基礎からていねいに説明された。将来、量子情報処理の実用化も夢ではないと期待も膨らむ講演だった。

Hui Ma 氏は3次元空間内の立体の表面積と体積、表面の曲率（曲り具合）についての法則について講演された。要点を押さえた説明はとても分かりやすかった。英語での講演を聞いたことも良い経験となった。

最後に行われた学生から講師へのインタビューでは、研究者になろうと思ったきっかけや講師のライフスタイルなどの多くの質問が出された。休日の過ごし方や子育てとの両立など日頃はなかなか聞けない女性研究者の生活についても快く答えて下さり、終始和やかな雰囲気でのインタビューが行われた。今後研究者を目指す学生だけでなく女性として社会に出て活躍しようと頑張っている学生にとって、とても参考になり勇気付けられる内容だった。

（報告書作成：大学院人間文化研究科・博士前期課程・物理科学専攻1回生 野田仁美）